

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：教育学部学校教員養成課程英語教育コース A 選択

学年：4 年

留学先大学：アルバータ大学

現在の学期：Fall term

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	14:00~15:30 EDSE 369 Curriculum and Teaching for Secondary School ESL Minors
火	12:30~14:00 LING 320 Second Language Acquisition
水	14:00~15:30 EDSE 369 Curriculum and Teaching for Secondary School ESL Minors
木	12:30~14:00 LING 320 Second Language Acquisition 17:00~20:00 EDPY 416 Introduction to the Teaching of English as a Second Language
金	
土・日	

履修科目や近況について

最初に授業について、次に生活や友達などについて説明したいと思います！（書いている時期は fall term の中間くらいになります。）

【授業】

私は、選考が英語教育であり、非英語母語話者向けの指導法の TESL (Teaching of English as Second Language) に関することを学ぶ目的で渡航を決めたので、第二言語関係の授業を履修しています。

履修登録の開始は4月ごろから始まりました。人気のある授業は早い段階で埋まることもあるので早めに履修登録をすることをお勧めします。

EDSE 369 Curriculum and Teaching for Secondary School ESL Minors

月曜日と水曜日にあるこの授業は、30 人弱くらいの小規模クラスで、中高生向けの

授業内容を想定している教育学部の授業です。理論を学びながら、実際に指導案を書いたり、簡単な模擬授業をしたりなど、実践に近い授業です。実際にカナダで行われている授業づくりについて学びたいと思い受講を決めました。（ESL とは English as Second Language の略であり、第二言語として英語を学ぶことを指します。以下 ESL と記載します。）

これまでは発音、語彙、文法、リーディングの指導法について、学習しました。具体的かつ専門的な内容が多く、将来の材料となりそうです。印象に残っている授業内容は2つあり、1つは色々な国の人の持つアクセントについて考えたことです。テキストを見ないで、音声のみ聞いたときに、分かる単語は何か、分からない単語は何か、また、何処が原因で、分からなさを生んでいるのかということを考え、非常に興味深い時間でした。2つ目は、カナダの先住民の方々にルーツがある子どもたちがクラスにいる時に、どのようにサポートをするのかというものです。カナダでは、他でも全体的に先住民の方々のことを考える機会が多く、歴史から学ぶという点で色々と考えさせられる時間でした。一緒に履修している学生は、現場経験のある方もおり、年齢も多様です。授業中の生徒と先生の相互のやり取りが半分くらいを占めながら、進んでいき、グループワークも多く、色々な意見を聞くことが出来る環境です。また Yvonne 先生は非常に面白く、留学生の私のことも気にかけて下さり、感謝しています。

課題や評価

指導案を書いた際は、アルバータ州の学習指導要領の様なものに基づきながら、作成していくので、少し時間がかかりました。ですが日本の学習指導要領と比較することができ、興味深いです。特に曖昧になりがちな評価の部分ですが、様々な項目、技能に対し、“そのレベルが達成されたとみなせる語彙レベルはこれである”のような明確なルーブリックがきちんとあり、非常に学びになりました。

この指導案は、TBLT (Task Based Language teaching タスクを通しながら英語を学んでいく授業) が課題でしたが、先生がレストランでの会話とか架空のものばかり考えるよりも、色々な教科の題材を基に授業を作る方が、中高生の学びにあっていると聞いていたことも印象的です(説明を後述します)。実際に教科の題材と英語のレベルにあった Reading を一つ見つけて、タスクを通して、教科内容を身に付け、同時に語彙や文法についても触れるという授業形式で作る課題でした。

毎週のプレ reading の課題は 15~25 ページほどで週によりまちまちです。かなり量が多いので、読み切れないと思うときもありますが、ESL での実践的なアクティビティやクラス運営について書かれた教科書で、学ぶことが多いです。また、その内容や授業で触れた理論も加味しながら、指導案も作成するので、提示された日程通りに読む方がよさそうです。

テストはないので、この指導案と指導案のリフレクション、これからやるプレゼンなどが (各 15% くらい) 評価に入ります。課題はそれぞれが成績の何%を占めるのかということと、作成前に評価基準とルーブリックを示してくれるため、それに沿って

作成していきます。また、フィードバックが次の課題前には返ってくるので、それを基に振り返りながら、作成することが出来ます。

一つ私が勘違いですが、この授業は Minor (主選考は別のもの) の人向けの授業でした。私は主選考自体が ESL であり、作成する指導案が自身の Major の授業を (例えば数学など) ESL 向けに作るという課題だったので、どうしようかと迷い、先生に相談をしました。すると、先生が Grade 8 (中学 2 年生) の社会で日本の歴史を少し学ぶということを見つけてくださり、日本がどのように学ばれているのかということも興味深かったため、社会の題材で作成しました。

2 週目からこの授業を見つけたので、Minor の方が、入りやすいだろうという理由でこちらを選んでしまいましたが、同じ内容の Major 向けのクラスもあるので、こちらを選んだ方が良かったのかもしれませんが、(ただし Major は主選考の人で埋まる可能性もあります。) しかし、結果的に、実際に色々な社会的な記事などを題材にその中から、文法や語彙の学習もできるものを探すというのは、Authentic な題材で学ぶことを推奨されている今の英語教育に役立ちますし、CLIL (教科内容を多言語で学ぶもの) やイマージョン教育にも繋がる経験ができたので、良かったと思っています。

LING 320 Second Language Acquisition

火曜日と木曜日の開講されており、40 人ほどのクラスで文学部の授業です。

色々な第二言語習得の理論について、言語そのものや社会学、心理学的なことが与える影響なども含めて、様々な角度で学んでいます。先生が解説をしながら、学生にその理論についてどのように思うかという意見を多く求めて、理論の検討をしています。後にバイリンガルについてのトピックも取り扱う予定になっているため楽しみです。そもそも第二言語習得についての理解を深めたいということと、授業を考えていく中での理論的背景を持ちたいという理由で受講を決めました。

かなり量、質ともに高く、毎回の授業中の Discussion Question も一筋縄ではないかな教材が多く、学びごたえのある授業だと思います。千葉大学の教育学部の授業でやった、英語学概論の授業で学んだことが活きる授業です。私は手が回りませんでした。この授業をとるなら、復習をすることをおすすめします。

具体的には、第一言語習得で該当するものが、第二言語習得の時も同じように考え得るかということや、2 つの理論を比較してどちらの方がより説得力があると感じるかなどを考えました。第二言語習得の際に、2 つの言語間で似ている言語と違いの大きい言語ではどちらの方が間違いが起こりやすいかなども興味深かったです。(ここでは日本語も英語とは大きく違う言語の例として登場しました。) また、コミュニケーションの社会的な違いの際に、電話の始め方の例で、日本はかけた方が最初に話す文化だと取り上げられたことがありました。友達との通話は勿論、正式にも厳格なルールがあるわけではないのに、他の国でこのように思われていることもあると知り、面白かったです。

Marina 先生は、たくさんの言語の例を出してくださり、わかりやすく説明をしてく

ださります。また学生の中には 3~5 個の言語を話せる人も多々おり、そのような方たちから、自分の経験も踏まえながら話を聞けるのは、非常に興味深い経験です。ですが、理解するまでに時間のかかる場合も多く、私の中では予習と復習が必須の授業でもあります。受講している中では一番ハードですが、周りの優しい友達にいつも助けられています。

課題や評価

日々の課題はありませんが、教科書のプレ reading は、教科書 1 章分くらいの分量です。また、2 回の中間試験（各 25%）と 1 回の最終試験(43%)、2 つのディスカッションのレポート（各 3%）があります。

まず、中間試験ですが、こちらに来てから初めてのテストであったため、そもそも問題が理解できるかということで非常に緊張と不安でいっぱいでした。（今の所そのようなことが無かったのは幸いです）テストはマーク式の問題と簡単な記述がありました。授業内容と教科書を復習すれば大丈夫だと思いますが、かなり核心的なことを突いてくるので、きちんとひとつひとつの理論、他との違いを理解する必要があります。

ディスカッションレポートは、私にとって救済の様な存在と言えるかもしれません。内容は授業でディスカッションした質問から 1 つほど選び、何を話し、どのような意見が多かったかということをもとめた後に、自分の見解などを述べます。目的としては、授業中に皆がディスカッションをすることが得意というわけではないので、それを表現する場を与えてくださっているとのことで、まだまだ言語の力不足でなかなか深い議論をできない私にとって、時間を取って考えることのできる良い機会となりました。

また、テストも含め、全て 1~2 週間以内に評価がつくので、今後の方針が立てやすいと感じます。残りの中間と最終試験も頑張りたいです。

EDPY 416 Introduction to the Teaching of English as a Second Language

この授業は木曜日の週 1 回ですが、17~20 時の 3 時間の授業で、時間帯的にも、日本ではなかった経験です。と同時に、これはアルバータ大学に留学をすることにした決め手の授業になります。英語を母語としない学習者に向けた指導法や異文化理解の学びを深めることで日本の英語教育を俯瞰的に捉えたいと思い、履修を決めました。

全体は 40 人ほどで、516 を履修している院生の学生と同時開講なので、一緒に授業を受けています。学生は元教師の方も多く、非常に多国籍な環境でもあります。TESL のコースの一つの授業にもなっており、ESL や EFL 環境における子ども~大人の学習者に対して、言語学習の理論、学習者のこと、文脈や環境のニーズなども含めて英語を教えることについて学んでいます。

先ほど挙げた LING320 や EDSE369 の中間のような印象で、内容的に被るところもありますが、他の角度から学ぶことで相互に復習にもなりますし、この授業は最終的

に教えることが想定されているので、どのようにクラスで応用できるだろうかと考えられるところが興味深いところです。

カナダは移民が多いので、教室で教師が対応しなくてはならないこと、知っておかなくてはならないこと、言語に対する寛容さなどが違うと感じます。Bonnie 先生は非常にフレンドリーで、出来るだけ全ての学生がめいっぱい学べるようにということをお気にかけて下さる良い方です。先生の第一言語が英語だからということもあり、英語の他にそれぞれ特有の言語を話せるということは本当に素敵なことで誇りに思っているということをおっしゃっており、とても素敵な考え方だと心に留めておこうと思います。

授業は、これもグループ活動やディスカッションが多く、自身の受けた L2 の授業についてなどの意見を交換したり、生徒が学習段階やエラーについて一緒にまとめていたりしています。色々な国での英語教育について共通点、相違点等を聞けるのは面白く、夕方の授業ですが、楽しく眠くなったことはありません。今後ゲストスピーカーの方も来るようなので、そちらも楽しみです。

評価や課題

中間試験(20%)と最終試験(40%)が 1 回とリフレクションペーパー(25%)、eclass 上のフォーラム投稿数回(15%)です。

プレ reading は毎回 15~25 ページほどで、教科書が難しいので読むのに少し苦労します。

中間試験は対面ですがパソコンで行いました。小問と少し説明や理論に基づいて授業を想定した簡単なシナリオ作りなどの writing があり、少し難しく感じました。英語のタイピングが速くないので、最終試験までに少しでも速く打てるようにならねばというところです。フォーラム投稿は何個か提示されているトピック（教科書の内容）と質問から選び、投稿します。友達の投稿に対して3回以上返信を書くことも課題のうちになっており、他の人が自分の投稿についてどのように思ったのかということを知ることが出来るので、非常に面白いです。

その他授業について

・履修：

3~5 個授業を取ることが出来るので、最初はジェンダーやグローバル社会学系の授業も登録して参加してみました。しかし背景知識がないため、専門的なことはかなり厳しく、締め切りギリギリまで参加し迷いましたが、自身の選考に絞りました。3つでは少ないのではないかと考えていましたが、色々な方にアドバイスをもらい、今の時間割に決めました。結果的に授業の予復習に時間を割くことが出来ているので良かったと思います。

・プレ reading：

私が千葉大で受けていた授業と大きく違う点は、プレ reading の量です。各授業毎週

のように教科書や論文を読む課題があります。読まなくても授業への参加はできますが、溜めてしまうと、授業の理解度、テストや課題の時に響くと感じました。また、プレ reading をしている前提で、授業ではそれについて考えるディスカッションの時間が多く取られていると思います。

・ 学生の様子：

こちらの大学で驚かされたことは学生が多く発言をするということです。多くの学生が挙手をし、授業についての質問、自身の体験や意見などを積極的に述べます。授業の内容に真剣に取り組んでいる様子が伝わり、その意欲の高さに脱帽するばかりです。どの授業も楽しいと同時にとてもハードルが高く、もっと英語力を高めておけば良かったと感じます。

LING320 の授業での忘れもしない経験について書かせていただきますが、授業がはじまって2回目頃に、目が合ったため、指名されたことがありました。その時は「この理論について何か知っていることはあるか」という問いかけだったかと思いますが、私が言えたことは、説明する英語力がないという弁解だけでした。言えることだけでもと促す先生を前に、穴があったら入りたいと思う瞬間でした。その経験から、留学中に「クラスで発言をしよう」ということを目標に取り組むことにしました。最初は小グループでのディスカッションも、皆の発言についていくことだけが必死で自分の意見などはほぼ言えなかったので、まず聞き取ることに集中し、次に、小グループのディスカッションで発言をすることを一歩目としました。難しく自信を失いかけたこともありましたが、1 か月ほどで少し慣れてきたと感じています。そのため、次にクラスで挙手し発言することを試してみることにしました。これはかなり緊張し、話しながら、頭の中が真っ白になった覚えがあります。また質問が来る可能性も想定していなかったので、かなり焦りました。これからの目標は、発表ということにし、次の報告書までに、何らかの進展があるよう努力する所存です。ですが、どのクラスも発言のしやすい暖かな雰囲気クラスであり、恵まれた環境であると日々感じています。

【生活】

周りの人に恵まれ、不自由なく楽しく生活を送ることが出来ています。色々な国からきている学生が多くいるため、他の国で生活することの心境や生活そのもの大変さなどを理解とサポートしてくれる友達、組織が多くあり、感謝しています。

9月のカナダは、からっと晴れて過ごしやすい気候でした。キャンパスの建物、自然も非常に綺麗で、歩くたびに感動をしています。10月中旬頃に入ると、朝晩、0度以下と、冷え込む日も出てきました。





教育学部棟です。→



以下、時系列に沿って書いていきたいと思います。

・～到着：

空港に Airport Welcome の学生ボランティアの方がおり、本当に運がよく、丁度シフトが終わり、方向が一緒であるということで、宿泊先まで荷物を運ぶのを手伝って下さりました。もしその方々がいなかったら、1人で見知らぬ土地で、不安でいっぱいになっていたと思いますので、感謝しかありません。次の日の入寮時も助けていただきました。

・～授業開始まで：

到着してから数日間多くのオリエンテーションに参加をしました。インターナショナル生のもの、新入生のもの等です。インターナショナル生のオリエンテーションで会ったバングラデシュの友達とは、その後も時々ご飯を食べたり、イベントに参加をしたりしました。Welcome week(授業開始後も続きます)という名前で音楽系のイベントやキャンパスツアーなどのイベントやサポート、説明会が開催され、サークル紹介

などのブースもありました。友達を作ることや大学について知るためにも、積極的に参加をすることをお勧めします。現実的なことを言うと、ランチなどを提供してくれるイベントもこの期間は多く、特にまだ、スーパーなど、何処に行けばわからない期間だったので、非常に助かりました。

また、この時期に昨年～今年度にかけて、千葉大に留学にきていた友達2人と再会しました。話を聞いてもらったり、買い物を手伝ってもらったりなど、知り合いに会えたということは非常に安心に繋がったと思っています。



・～授業開始後：

まずは各クラスで話せる友達を作ろうということを目指にしました。運よく小規模のクラスで、ディスカッションも多いことが関係していると思いますが、授業の回数を重ねていくうちに、話せる人が増えてきました。自分はいつも聞くばかりだと引け目に感じてしまうこともありました。授業を休んだ友達に授業内容を教えるなど、出来る限りの恩返しをしていきたいと考えています。

また、English Conversation Club (ECC) というものが毎週金曜日にあり参加をしています。これは留学生課の様ところがやっている学生のための英会話のサポートの様なもの、普段はトピックにそって話し合いをしたりしますが、時々、ECC 主催のイベント、旅行なども開催されます。そこであったフランスから来た留学生の子と仲良くなり、その後のイベント、小旅行などにも一緒に参加をしました。（後述します）他にもアウトドアの活動が好きなので、Outdoor club に一応入りました。ですが、イベントの人数制限で落ちてしまったり、予定が合わなかったりして大きな活動には参加できていません。

食べ物、生活必需品などは、Wallmart と Nofrills というスーパーをよく利用しています。また、アジアスーパーなども近くにあるので、割高にはなりますが、日本の食材も手に入れることが出来ます。バスや電車で行くことにはなりますが、生活しやすい環境だと思います。また私は学食の回数券の様なものを購入しました。自炊をする方がリーズナブルではありますが、1日に一回はバランスの良い食事をとれるのでありがたいです。

寮は HUB という名前色々なお店と寮が一緒になった建物に住んでいます。図書館や駅、いくつかの棟には、外に出ずに行くことができ便利です。4人部屋でキッチン等が共有ですが、温厚なルームメイトなので、問題なく生活ができています。

毎日の生活としては、課題の締め切りやテストの前はほぼ毎日、集中できる環境なので、図書館に通い勉強をしています。少し疲れた時は、友達と話をしたり、料理をしたり、HUBにあるピアノを弾くことが今のリラックスになっています。

少々わかりにくいですが、HUBの内部の様子と部屋の共有部分の写真です。



●旅行、お出掛けなど

・ボタニカルガーデン：

Welcome イベントの一環になりますが、9月の1週目に大学の運営するボタニカルガーデンへの行ける機会があったので、参加をしました。その後買い物に行ったり、ご飯を食べるときに会って話したりできる友達が出来たので、参加をして良かったです。

・ 去年千葉大学に来ていた友達とアメフトの試合を見に行きました。初めて試合を見ましたが、皆が一丸となって応援しており、とても楽しい空間でした！



・ 9月下旬に友達がドライブに連れて行ってくれました！丁度留学開始から3週間ほどが経ち、生活にも慣れてきたため、急に勉強が大変であることと、寂しさも出てきたからか、気落ちしているところだったので、リフレッシュ出来て、ありがたかったです。その後も色々話を聞いてくれる友達になり、非常に感謝しています。



・ ドラムヘラーの Oneday trip :

ECC を開催している学校主催の遠足に参加をしました。博物館と Canyon に行くものでしたが、広大な景色と静けさが広がっていて、天候も良く絶景で、勉強で大変な中、とても良いリフレッシュになりました。特にバスの道中3時間半、ずっと話して

いたのが、一番楽しかった思い出かもしれません（笑）



←前述しましたが、
ECCで仲良くなった友達です。

・学校の敷地からオーロラが見えました。→



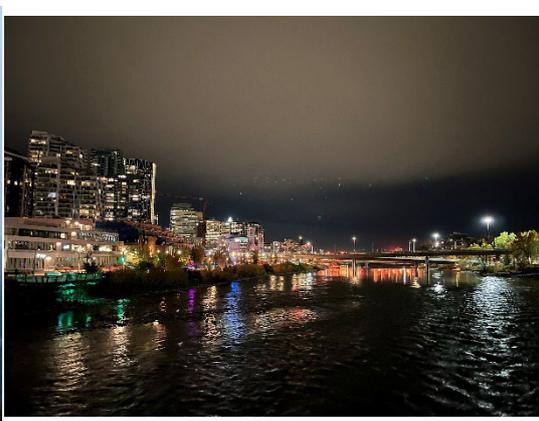
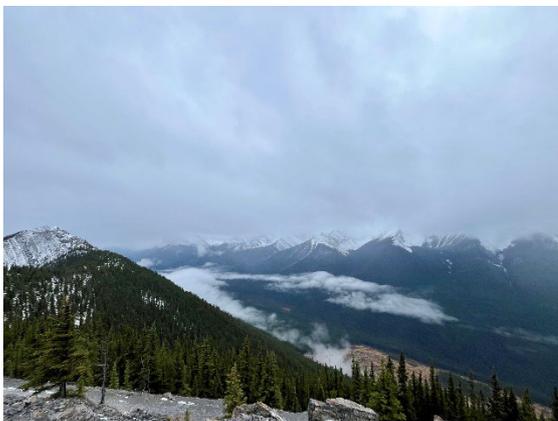
・授業の友達が Thanksgiving の日に家に招待してくれました。そもそもこのイベントを祝ったことが無かったので、全てが新鮮でした。素敵なおうちと温かいご家族で、カナダの文化についても知ることができ、受け入れて頂いたことに感謝しています。↓一羽丸ごとの七面鳥です。



・カルガリーへの小旅行：

遠足と同じく学校主催の旅行です。10月中旬の2泊3日で、アルバータ州内のバンフと、カルガリーの市街地への観光でした。バンフはカナダに来る前から行ってみたい場所であったので、行く機会があり、本当に良かったです。

あいにく雪が降っておりましたが、依然として、非常にきれいで雄大な景色でした。友達とも長い時間を過ごすことができ、良い思い出になりました！



授業の課題やテストとの合間に、予定を詰め込んだ充実したスケジュールになっているのではないかと感じます。冗長な説明も多くあったかとも思いますが、お付き合いいただき有難うございました。留学のイメージを持つことの一助になれば幸いです。英語力の不足などに落ち込みそうになることもありますが、授業にしっかりと取り組み、同時にカナダに滞在していること自体も最大限に充実させた留学になるように、残り6か月間も頑張りたいと思います。

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：教育学部学校教員養成課程英語教育コース A 選択

学年：4 年

留学先大学：アルバータ大学

現在の学期：Winter term

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	9:30~10:50 EDPY 301 Introduction to Inclusive Education: Adapting Classroom Instruction for Students with Special Needs
火	9:30~10:50 ANTHR 150 Race and Racism 17:00~20:00 EDPY 417 Grammar of English for Teachers of Adult ESL
水	9:30~10:50 EDPY 301 Introduction to Inclusive Education: Adapting Classroom Instruction for Students with Special Needs 17:00~20:00 EDPY 418 Methodology in the Teaching of English as a Second Language to Adults
木	9:30~10:50 ANTHR 150 Race and Racism
金	
土・日	

履修科目や近況について

Winter term の中間の 2 月末頃になります。前回と同様に授業、生活全般の順番で書いていきます。

【授業】

秋学期に引き続き、非英語母語話者向けの指導法の TESL(Teaching of English as Second Language)の授業を中心に学んでいます。加えて背景知識をつけるためにも、Anthropology の Race に関する授業とインクルーシブ教育に関する授業を取ることにしました。今学期は一つ授業を加えて、4 つの授業を取ることにしたため、少し大変ですが、一つずつ紹介していこうと思います。

EDPY 417 Grammar of English for Teachers of Adult ESL

火曜日の週に 1 回、17~20 時の授業です。ESL 向けの、教師として教えるために、文法について、自身が学び、その教え方も身に付けるという授業になっています。日本の授業では習わなかったディープな知識であったり、日本で教えられている文法とコンセプトが異なるところがあるなど、非常に興味深く学んでいます。加えて大学で習った、コンテキスト化して、文法を教えるという方法が教え方の方法として取り上げられており、より広く深く教え方や教材について学んでいます。

全体は 15 人ほどで少人数のクラスです。前学期に 416 を一緒に受講していた学生もおり、先生も優しいため、非常にアットホームな雰囲気です。授業が進んでおり、質問等がしやすい環境です。直接その文法内容を教えるために学んでいるわけではなく、教師として身に付けるということになります。Linguistic の要素が強いため、かなりハードです。所謂ネイティブの学生にとっても、説明できず、少々苦戦をしている様子なども見られ、少し難しく感じる授業でもあります。ですが、先生が様々な歌、4 コマ漫画、風刺画など様々な材料を用いて楽しく教えてくれますし、留学生であることも気にかけて下さりますので、夕方で大変なはずですが、3 時間があつという間に過ぎる気分がします。

評価や課題

プレゼン用 PPT 15%、中間試験のレポート 20%、最終試験 35%、Grammar Teaching Portfolio 30% です。

プレ Reading は英語を学ぶ学習者向けの文法書になりますが、毎回 30~40 ページほどに分量になり、難しいので少しハードです。

中間試験はテストそのものが点数になるのではなく、それを振り返ったレポートが課題になるので、面白いなと感じました。ただ最終試験は勿論テストであり、自身のこの授業での学びをまとめたポートフォリオも作成することになっています。

EDPY 418 Methodology in the Teaching of English as a Second Language to Adults

TESL 関係の授業で、前学期の TESL の introduction の続きの授業になります。水曜日の週に 1 回、17~20 時の授業です。理論などをもとに、実際にモジュールプランやレッスンプランを作ることを学ぶ実践的な授業です。

417 と同様に少人数のクラスで、15 人ほどで学んでいます。院向けの 518 と同時開講であるため、半数以上の方が院生やアフターディグリーであったり、祖父母に年齢が近い方がいたり、英語の先生の経験がある方もいたりするなど色々な考えを聞くことができ、面白いです。(日本で教えたことのある方が 2 人もいます!)

“TESL to Adults”であり、移民、難民の大人向けの点自体は、日本の授業とは異なりますが、その分、よりリアルさや必要性を追求しており実践的であるため、参考にな

る学びが多くあると感じます。具体的には、CLB という、レベルの基準に基づき、英語の授業が開講されますが、4 技能の中に細かく具体的な能力の目標があり、それをもとに、授業を作ります。また授業のメインは、Real world task となっており、仕事を見つける、病院に行くなど、本当に必要なシチュエーションを考えるとという内容が非常に学びになっております。色々なオンラインリソースや生成 AI についても触れる授業があり、非常に有意義でした。

評価や課題

指導計画の様なものがそれぞれ 20%、25%、プレゼン 15%、課題 10%、最終試験 30%

2 つの指導計画書はカナダの CLB という指導要領の様なものに沿って、書いていくため、かなり時間がかかりました。また、どのうち一つはモジュールプランと言って長期的なプランを作成するものでした。プレゼンは論文を一つ選んでペアでクラスでの応用なども交えて、発表するものでしたが、留学して、初めてのプレゼンだったので、かなり緊張しました。このクラスもリーディングの量がかなりあり、水曜日という中日であったので、時間の確保が大変でした。

EDPY 301 Introduction to Inclusive Education: Adapting Classroom Instruction for Students with Special Needs

この授業は、インクルーシブ教育について学ぶ授業です。シラバスの Scaffolding(足場掛け)についての表記があり、履修を決めました。理由としては前学期の TESL のクラスなどで、Scaffolding が必要と学びはしたものの、実際にどのような助けをすることが出来るのかというステップが曖昧であったためです。また、オープンな風土や多様性を感じる事の多いカナダでの取り組みにも興味がありました。障がいがある児童生徒や英語が第一言語でない生徒、様々な学習生活支援が必要な生徒はもちろんのこと、全ての様々な児童生徒のためにどのようなサポートや勉強と生活環境を作るかという実践的な視点での展開が多く、非常に興味深い授業です。90 名ほどの中規模のクラスですが、5、6 人ほどのグループに分かれ、頻繁に話し合いや課題の作成などグループ活動があります。基本はレクチャー形式ですが、授業の後半にグループで分かれて話し合う機会が多いです。先生や学生に意見を求める場面が多かったので、実際に現場を経験された方の声等も聴くことが出来、面白かったです。

この授業は教育学部の学生の必修で、学部生限定のものだったのですが、履修登録締め切り直前でも空きがあったので、受け入れて頂く事が出来、感謝しています。

評価や課題

課題 2 つそれぞれ 10%、21%、RSE9%(後で述べます)、小クイズ $10 \times 3 = 30\%$ 、最終試験 30%

RSE (Resource Strategies Exploration)というのは授業内でグループで指定の課題を完成させるものです。動画や資料を基に重要な点をビジュアル化するものが多かったので、Canva 等を用いて作成しました。また、実際の指導案を想定して、どのようなサポートの段階を踏めるか等を細かく考える機会もありました。授業中という限られた時間で作成するため、スピードという部分で大変な場面もありました。また、成績とは直接関係しないグループワークの課題もあり、私の受けている他の授業と比べると、比較的小さな課題が多い授業だと思います。

ANTHR 150 Race and Racism

火曜と木曜の Anthropology の授業です。また 100 番台なので基本的な授業となります。前学期の授業なども踏まえて、そもそも様々な言語的、文化的バックグラウンドを持つ生徒に英語を教えるという TESL の授業を受けている中で、自分の背景知識が不足していることを感じたことや、多様性の豊かなカナダでどのようなことが学べるのだろうかという興味がわき、受講することに決めました。

期待していた以上に興味深く、そもそも race とは何なのかという話やその歴史、社会にある racism など、かなり深い所まで学び、非常に面白い授業です。

特にずっと日本で生活していると、それほど、深く考えることがなかったテーマになりますので、まさに 180 度考え方を変えるような学びもあり、幅広く学ぶことの大切さを実感しました。特に世間的には Race (人種) は、肌、髪の色などの身体的な特徴で分けて、呼ぶことも多いですが、遺伝子学や生物学的に明確な違いはないので、そのような生物学的な race は間違っているというものは定義出来ないもので、存在せず、社会が作り出したもの(social contract)だというものです。私たちが世間で使っている“肌の色”等は、ある立場にとって都合の良いものを利用しているだけ等、非常に興味深い内容です。

講義形式の授業でグループ活動などはありませんが、先生が意見を求める場面は時々あります。

評価や課題

出席点 15%、Prompts 5% × 5 = 25%、中間試験 30%、最終試験 30%

Prompts は学期を通して、5 回あり、授業中にドキュメンタリーを視聴したり、記事を読んだりして、学んだ内容に基づいて考えを書く、短いエッセイの課題の様なものです。

この授業もリーディングの量が多く、10~15 ページほどあります。教育学部の授業の単語とは少し異なるので、専門用語が難しく、慣れるまでは比較的時間がかかりました。

その他

・ボランティアについて

『日本語クラス』

今学期は VA (Volunteer Assistant) として、大学の日本語 102 の授業のボランティアをしました。月水金の授業に出て、先生のアシスタントや学生の会話のサポート等に入りました。具体的には、ペアがいないときは参加をしてペアになったり、質問があるときにそれに答えたりするなどが仕事となります。週三回と少し多く大変なこともありましたが、とてもあたたかで楽しいクラスであり、先生も優しいので、毎授業に行くことが楽しみでした。102 ということで2 番目に簡単なクラスであり、基礎的な日本語を学生たちは学んでいます。習った範囲が限られているため、英語を使う場面が多かったのですが、教えるという立場で習ったことも生かせるという点で、非常に有意義でした。

『地域の小学校』

カナダの小学校について、日本との違いなどを見たいと思い、知り合いに小学校でボランティアをしている学生がいたので、紹介をしていただき、メールを送り、ボランティアを始めました。週二回 2, 3 年生のクラス (算数や理科) と、4, 5 年生のクラス (所謂国語) のボランティアに参加しています。前学期からずっとやりたいと思っていたのですが、なかなか余裕がなく、2 か月弱だけですが、始めることにしました。先生の指導の仕方や、子どもたちの授業の受け方、内容、教室の掲示物等、色々と学びが多く、ボランティアをして、本当に良かったと思っています。はじめは英語で子どもに理科や算数などを教えたことが無かったので、果たしてきちんと説明ができるのか等と、かなり緊張と不安でいっぱいだったのですが、先生方がとても優しく受け入れて下さり、子どもたちも非常にフレンドリーなので、難なく打ち解けることが出来ました。プレゼントを渡してくれる等、とても可愛いです。(ですが毎週緊張は解けません。) 指導で使うフレーズや校長先生などと話すこと等、様々な使用場面で英語を使う場面を得られたことで英語力の足りなさを感じ、今後の自身の学習のプラスになったと感じます。

留学生の立場の学生を受け入れて頂いたことに感謝しかありません。残りの数回の活動も頑張りたいと思います。

・履修について

今学期は TESL の授業以外で中々しっかりと来るものがなく、授業の始まった 1 週目に様々なクラスに参加し、どのような感じかを実際に確かめました。前学期は 3 つでそれでも大変だったので、迷いましたが、興味があったので 1 つ増やして 4 つ取ることに決めました。秋タームの報告書にも書きましたが、時間割を見ると、日本の大学の時間割と異なり、授業コマ数が少なく、一見暇そうに見えますが、プレ reading などの資料がたくさんあるので、実際にはなかなか大変でした。

・授業の参加

秋タームの報告書に書いた発表について書いていこうと思います。前学期は授業への参加自体が精いっぱいだったので、発言や質問などをする余裕はなかったのですが、2学期目となり、少し余裕が出てきたのと、今学期は小さめのクラスを2つ受講していたこと、友達が既にいることなどの、環境に恵まれて、分からないときは発言をして聞くなどの参加ができるようになりました。グループディスカッション等についても、100%とはまだまだ言えませんが、徐々に発言をできるようになってきました。そもそも、こちらの学生は意見が被ったら、発言をしない等ではなく、同じような意見でも自分のオリジナルの部分があるならば発言をしていることに気づき、自分の考えている以上に心配する必要はないということを実感しました。授業中もグループディスカッションなども周りの学生一人一人の参加意欲が高いことや、アットホームな雰囲気なこと等、大変感謝しています。

【生活】

秋学期に引き続き、非常に充実しております。冬は寒いということを聞いてはいましたが、目や鼻の中が凍る感覚等、今まで体感したことの無い寒さです。手袋をせず、手を出していると痛くなってきます。ですが、そのこともあり、大学内の建物が繋がっているものが多いため、長時間外に出る必要があまりないため、助かっています。雪もかなり降りますが、さらさらとした雪なので、衣類が濡れるということはありませんでした。また、少し経つと、寒さに徐々に慣れてきて、人間の体の凄さを実感しました。

ただ、一つ堪えたのが、冬の日照時間が短いということです。朝の9時くらいにならないと明るくならず、5時頃には暗くなるので、日光が必要な私にとって、暗い中で起床するのはかなり大変でした。活動時間が短いので気分が暗くなりがちとの話も聞いていましたが、大学内でビンゴやクラフト等、様々なイベントが開催されており、楽しく冬も過ごすことが出来たと思います。

課題が多かったことや、千葉大の授業の参加や、就活など、時差の関係で(15時間)、夜中に受けていることが多々あったことなど、かなり体力面で大変なこともありましたが、大きく体調を崩すことはなく過ごすことが出来て、本当に良かったです。



雪景色は本当に綺麗です！また、雪の結晶を実際に見たのは初めてでした！

●その他いろいろ

前回の報告書が秋タームの中盤だったので、それ以降について、いくつか書いていこうと思います！

・バンクーバーの旅行

1回目の報告書を書いたすぐ後の秋タームのリーディングウィークという休みにバンクーバーに旅行に行きました！友達と2人で行きましたが、初めて海外の旅行を自分達だったので、かなりドキドキとワクワクの多い旅行でした。アクシデントもありましたが、それも含めて、とても良い思い出になりました。彼女はドイツからの秋タームだけの留学生だったので、帰ってしまい、少し寂しかったです。



・トロントの旅行

年末の休みにトロントに旅行に行きました。非常に国際色豊かな街で、面白かったです。ナイアガラの滝も見に行きました。



・クリスマス

Thanksgiving の際に招待してくれた友達に再び招待してもらい、イブは友達の家で過ごしました。本格的にクリスマスの飾りつけなどがしてあり、素敵でした。クリスマス当日は友達と料理を作ったり、映画を見たりなどをして過ごしました。



・ウィンタースポーツ

スケートやスキー、スノボ等さすがカナダということもあり、非常に盛んなので、色々と挑戦しました。

・ホッケーの観戦



・レストランやカフェなど

勉強の気分転換として、カフェをよく利用しました！友達とテスト前に勉強をすることもあります。学校の近くのお気に入りのカフェです。



・キャンパスの動物

自然豊かであるため、ウサギやシカなどの動物に遭遇することもありました。



この8か月間を振り返ると、非常に充実した留学であったと言えると思います。帰国日が近くなり、授業が終わってしまうこと、友達と離れることなど、寂しい気持ちでいっぱいです。授業中に色々と助けてくれた友達、先生方には感謝しかありません。また、自身が渡航したり、友達が日本に来て旅行に来て会ったりするなどの機会があると良いなと思っています。これから、最終試験のシーズンに差し掛かり、非常に大変ですが、頑張りたいと思います。

ここで得られた貴重な経験や、日本の住み慣れた地を離れて、初めての一人暮らしなども通して、今までたくさんの方に支えられていることに改めて、気づかされております。この経験や学びを有意義なものにできるように、これからも頑張りたいと思います。最後まで読んで頂き、ありがとうございました。